



2019年10月5日～2019年10月11日

2019年10月15日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円では上昇、対米ドルでは下落しました。また、2年国債金利は低下しました。

米中通商交渉に関して楽観的な見通しが強まった事で、リスク選好の動きから米ドル高円安が進行しました。一方ブラジル国内では、主要経済指標が軒並み市場予想を下回る内容となったことから利下げ期待に拍車がかかり、ブラジル・レアル安要因となりました。

経済指標に関しては、8月の小売売上高や9月のIPCAインフレ率などが発表され、それぞれ市場予想を下回る内容となりました。特にIPCAインフレ率は前年比2.89%と中央銀行の目標値(4.25%±1.5%)の下限に近づいており、一部のアナリストからは政策金利が4.0%以下(現在5.5%)になる可能性について言及がありました。

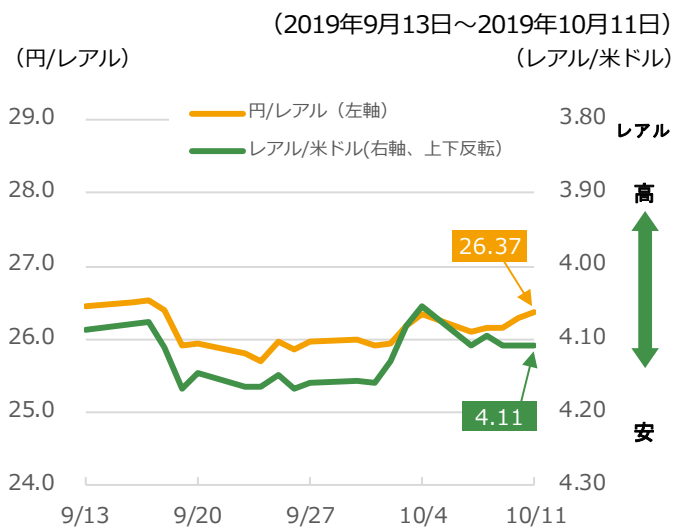
今週の見通し

今週は経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。

年金改革法案の第二回投票は10月22日(現地)に行われる予定となりました。また、ゲデス経済相は年金改革法案の議論の終了後に税制改革法案を下院議会に提出する予定と述べており、改革継続の姿勢を示しています。

一方、現地紙ではボルソナロ大統領が自身の所属する社会自由党(PSL)からの離脱を準備していると報じられています。ボルソナロ大統領がPSLを離党した場合の改革への影響は不透明ですが、動向を注視したいと思います。

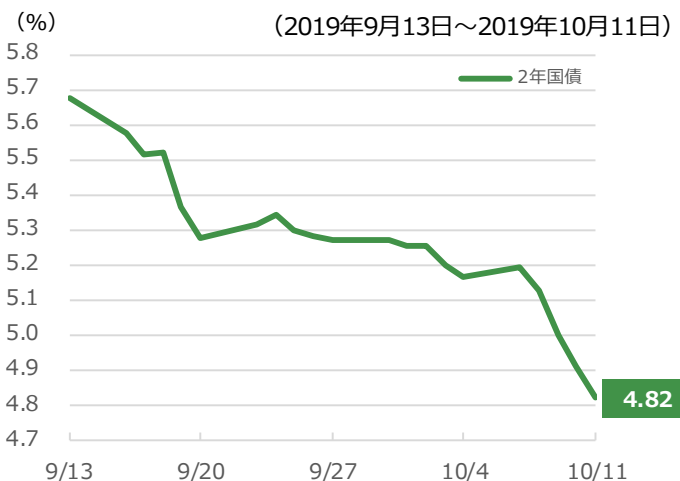
ブラジル・レアル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

ブラジル 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。